校長室だより～燦燦～ №６３５

経営の神様

2022.10.11

世の中に経営の神様と呼ばれる方がいる。その筆頭は、松下幸之助氏だろうか。他には稲盛和夫氏がいる。稲盛氏については、京セラの創業者、第二電電（現ＫＤＤＩ）の創業者ということは知っていた。いつの頃からか、稲盛氏の書籍も読むようになった。

すると、瀕死の状態となっていた日本航空再建のために稲盛氏に白羽の矢が立った。わずか２年間でＪＡＬを生き返らせたストーリーからは、多くのことを学ぶことができる。この間、無報酬だったというから驚きである。宿泊するホテルでは、コンビニのおにぎりが晩ご飯だったこともある。

稲盛氏の有名なエピソードに、吉野家の店舗ごとにおける味の違いが分かるというものがある。稲盛氏の持論は、有楽町などの吉野家は頻繁にお客が訪れるため、牛丼を煮込みすぎたりすることもなく、品質が安定してよいというものである。

驚くことに、稲盛氏は重要な接待の場所として吉野家有楽町店を選んでいた。高級料亭ではない。他の人がやるとひんしゅくをかいそうだが、稲盛氏がやると様になる。また、稲盛氏はよくおごっていた。それは値段が高いものではなかった。アイスクリームだったり、焼き鳥だったり、数百円で買えるようなものがほとんどだった。

部下が、稲盛氏に「よくやった。褒美に昼食をおごってあげよう」と言われて、目の前に出てきたのがカレーライスだったということもある。大切なことは、稲盛氏と同じ釜の飯を食べることで、物心両面の幸せを感じ、さらに頑張ろうという気持ちを強くすることである。

数百円のおごりでは、人によってはケチだと思われるだろう。稲盛氏がやるとケチにならないのは、全人格をかけて贅沢を嫌っているからである。お金が惜しいわけではなく、莫大なお金を財団にポーンと寄付したりする。

経営と言っても学校経営だが、稲盛氏の教えから学ぶことは多い。リーダー論、人生論、生き方論などである。中でも名言の数々は、私の名言手帳に数多く書き込まれている。最近のものを紹介する。

> 素晴らしいチャンスは、ごく平凡な情景の中に隠れている。しかし、それは強烈な目的意識をもった人の目にしか映らないものだ。
>
> “自分、自分、自分”という生き方には限度がある。そうではなくて、この人を喜ばせたいと思った瞬間から限度を超えていく。
>
> 目の前に倒れている人間がいた場合に、知らん顔する人間と手を差し伸べる人間、どっちが美しいかと考える間もなく手を差し伸べるのが人間なんだ。

また、「稲盛経営１２か条」というものがある。どれも重要だが、一つを言われたら第１１条を選ぶ。それは「思いやりの心で誠実に」である。

稲盛和夫氏は、８月２４日、天寿を全うされた。９０歳だった。稲盛氏が遺したものは数々あるが、一番は人であろう。人を遺す人、それは超一流の人物である。これからも、稲盛氏の言葉や考えに教えを請うていきたい。